



実施報告⑩ 未就学児向けチリメンモンスター人形劇と紙芝居 きしわだ自然資料館 風間美穂

1 プログラムの概要とねらい

きしわだ自然資料館は、チリメンモンスターが誕生した2004年から、大阪府立泉南高等学校（当時）の協力を得て、地域の幼稚園や保育所などに出向き、就学前児童を対象としたチリメンモンスター実習を行ってきました（図 4-52）。

こうした実習の際は、チリメンモンスターをさがす前にちりめんじゃこの漁場である大阪湾のことや海の生物について説明を行うようにしていますが、就学前児童の理解を促すような内容や方法は、各スタッフ独自の工夫に任されてきたところがありました。

そうしたなか、就学前児童には言葉や文字だけではなく、ぬいぐるみや絵本、イラストなども使って説明する方が効果的であることがわかってきました。市販のものではうまく説明しづらいことがあるため、チリメンモンスターや身近な海の説明に適したオリジナルの人形劇と紙芝居をつくることにしました。これらの教材とプログラムは、船の科学館による「平成 27 年度海の学びミュージアムサポート」を受けて作成しました。



図 4-52

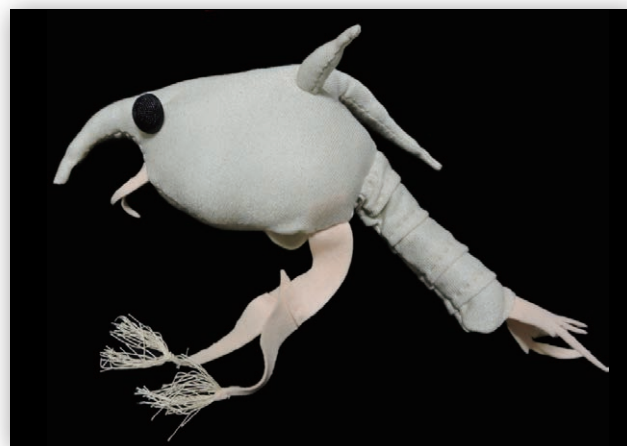
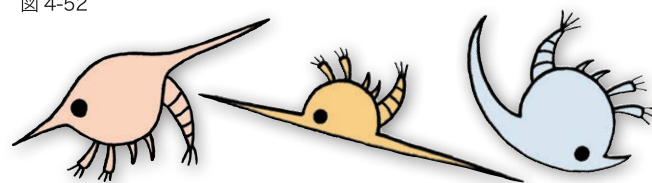


図 4-53



図 4-54

2 事前準備、作成の過程

作成にあたっては、就学前児童を対象とした実習経験の豊富なスタッフと相談しながら、説明に使いやすい教材の仕様を検討しました。まず、チリメンモンスターとしてはよく見つけるものの、注目されることの少ないカニの幼生期の人形と、その発生や成長を説明できるストーリーの人形劇があるとよいという意見が多く出されました。

また、口頭での説明だけだと伝わりにくいことがあり、イラストのように目で見てわかるものがあつたほうがよいという意見も多かったため、実習手順の説明に使える紙芝居をつくることにしました。人形劇や人形については、人形劇サークルを長年主宰されてきた河原崎統基氏に、紙芝居については、以前に図書館司書をされていた西矢早百合氏に、それぞれ協力を仰いで制作しました。

人形劇では、あまり多くの人形を使うシナリオを初心者が見るのには難しいとの意見があり、3～4名で演じられる内容としました。人形劇用に作成した人形は最終的に、100を超える小型ゾエア幼生を放出できるカニの成体1体、中サイズのゾエア幼生2体（図 4-53）、メガロバ幼生へと変化するゾエア幼生1体、ゾエア幼生を襲うタチウオ1体の計5体になりました。

紙芝居については、単に手順を説明するだけでは子どもの興味をひきにくいので、ネコがチリメンモンスターを体験するという内容にしました（図 4-54）。

3 実施のようす

ここでは、この人形劇を一般向けにはじめて披露した、2016年3月27日の泉南市埋蔵文化財センターでの実施状況を紹介します。この日は春休みで、就学前児童と保護者という組み合わせの参加者が多かったため、チリメンモンスターについて簡単に説明したあと、カニの人形を使った人形劇を実施しました（図 4-55）。ごこちない進行ではありましたが、人形が動いてしゃべり出すとすぐに子どもたちはそちらへ集中し、カニのおかあさんやゾエア幼生のお話（約15分）を最後まで楽しんでいました。

途中、ゾエア幼生をうまく出せないというハプニングがありましたが、子どもたちに「お母さんガニを応援してください」と呼びかけ、カニの人形がゾエア幼生を放出する仕掛けと一緒に引っぱってもらうという機転を利かせたことで、なんとか乗りきることができました。おかげでカニの発生について



図 4-55

よく理解できたと、終了後のアンケートに書かれていたのは幸いでした。人形劇を終え、その後に行うチリメンモンスターさがしの手順を紙芝居で説明したところ、体験をする子どもだけではなく、つき添いの保護者からも、わかりやすかったと高評価を得ることができました（図 4-56）。

チリメンモンスターさがしでは、多くの参加者が人形劇に登場したゾエア幼生やメガロバ幼生をルーペや顕微鏡で観察していました。これらは、チリメンモンスターとしてたくさん見つかる一方、小さなものが多く魚類などに比べるとあまり注目されないのですが、人形劇として紹介したことで、より親しみをもってもらえたと思われます。人形劇の中でカニを襲う役回りだったタチウオについては、劇中ですどい歯を持つと紹介されていたことをあらためて伝えと、口にある歯の部分をじっくり観察する参加者が多くなりました。



図 4-56

4 工夫点

人形劇では、数が多くて目立たないものの、海の生態系では重要な地位にある生物を主役にするのを、計画段階から決めていました。高校や大学で学ぶ甲殻類の発生という内容を、就学前児童に伝えるのは人形劇でも難しいのではないかと心配しましたが、ほとんどの子どもはある程度理解できていたようです。

学習の成果と評価

今回作成した教材とプログラムは、想定以上に就学前児童に受け入れられました。その後、人形劇は小学校でも上演していますが、たとえ高学年の生徒であっても、興味を持って見てもらえることがわかりました。

また、できる限り実際の形態に近づけた人形は、より専門的に甲殻類を解説する際の教材としても役立っています。最近では紙芝居も、小学校の出前授業で手順を説明する

際に活用するようになっていいます。今回作成したのは就学前児童向けの教材とプログラムですが、やり方を工夫すればより上の年齢層にも利用できることがわかりました。人形劇や紙芝居は、普段海にあまり関心がない人たちにも、海のことを楽しみながら学べるツールとなっています。海の学びの入口の一つとして、こうした教材やプログラムは効果的だと考えています。

